



2027横浜  
国際園芸博覧会

## 横浜市における基本計画の検討状況

---

## 第1回目

1. 基本認識
2. テーマ・サブテーマ・事業コンセプト
3. 参加方針
4. 事業運営計画
5. 会場計画
6. コミュニケーション計画
7. 輸送計画
8. レガシー計画
9. 事業費・事業スケジュール

基本認識、サブテーマ、事業コンセプト等を中心に議論

## 第2回目（本日）

1. 基本認識
2. テーマ・サブテーマ・事業コンセプト
3. 参加方針
4. コミュニケーション計画
5. 会場計画
6. 展示・行催事計画
7. 会場運営・管理計画
8. 輸送計画
9. 情報基盤計画
10. 組織・資金計画
11. リスク管理計画
12. レガシー計画

第1回目検討会で議論したサブテーマ・事業コンセプト等から具体的な方針を提示

## 第3回目（2月）

第1回・第2回  
検討会の  
取りまとめ

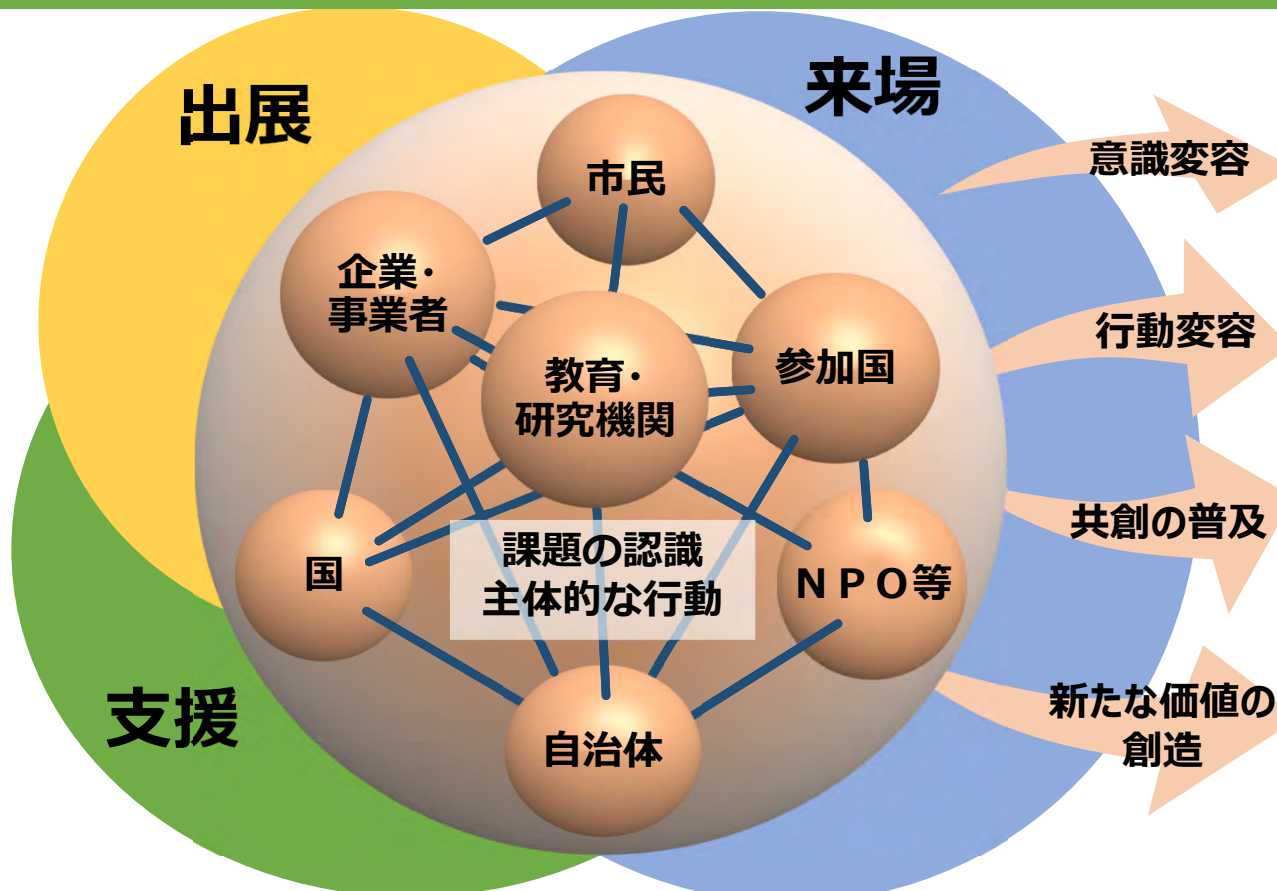
第1回、2回での議論を踏まえ、計画市案取りまとめ

# 多様な主体の参加と共創

- 環境容量の限界といった地球規模の危機や複雑化する社会課題に直面し、個による解決が困難な課題が増加している中で、持続的な未来を築くためには、全世界のあらゆる分野の人々との連携や英知の結集が必要。
- 「来場」「出展」「支援」の各形態で参加する「多様な主体」の連携には、ひとりひとりが課題を解決するための一員であることを自覚し、主体的に行動することが重要。本博覧会では「来場者」についても、主体的な参加を求めている。
- 複雑化する社会課題の解決には、異なる立場や視点を有する「多様な主体」が連携・協力し、「共創」によって突破口を開くことが不可欠。関西・大阪万博の共創チャレンジ等の手法も取り込みながら、国際園芸博覧会における多様な課題を解決していく。

・ 環境容量の限界といった地球規模の課題  
・ 複雑化した社会課題

多様な主体の参加・連携、共創による課題解決、テーマの実現



幸せを創る明日の風景  
の実現

新たな花き・園芸文化の  
創出と関連産業の発展

心豊かなライフスタイルを  
世界に定着

日本・横浜でのグリーン  
シティを国内外に発信

持続的な未来社会の構築

# 年次別展開

- 開催までの準備～開催～終了に至る全体のスケジュールに沿って、年次計画を立て、効果的にコミュニケーションを展開する。
- 特に、「BIE承認」「参加招請」「会場整備」「前売券発売」「博覧会開幕・閉幕」等が重要なマイルストーンとなることを意識し、博覧会を成功に導くように取り組む。
- 2025年大阪・関西万博と連携し相乗効果を生むよう取り組む。また、海外における国際園芸博覧会等を国外向けのPR機会として積極的に活用する。

2021

2023

2025

2027

2028～

認知度・参加意欲の向上

参加機運の醸成・参加の実現

レガシー継承・発展

○BIE承認 ○参加招請

○会場整備

○前売券発売

○博覧会期間

★2022アルメレ

★2023トール

★2025大阪・関西万博

【展開イメージ】

主に支援者、出展者の認知度を向上させるため、講演会、イベントの開催及びメディア広報などを実施

【展開イメージ】

主に出展者、来場者の参加意欲を向上するため、シンポジウムやワークショップなどで本博覧会の内容・意義を周知

【展開イメージ】

出展・来場・支援の各ターゲットに、参加の実現と積極的な参加促進のため、プレイベントの実施などを行う

新たな価値の  
創出

意識変容・  
行動変容

【展開イメージ】

行動変容を促すフォローを実施する。レガシーとして受け継がれるように継続的なコミュニケーションを実施



WEB等による情報発信



参加型ワークショップ



イベント出展PR



花と緑のイベント



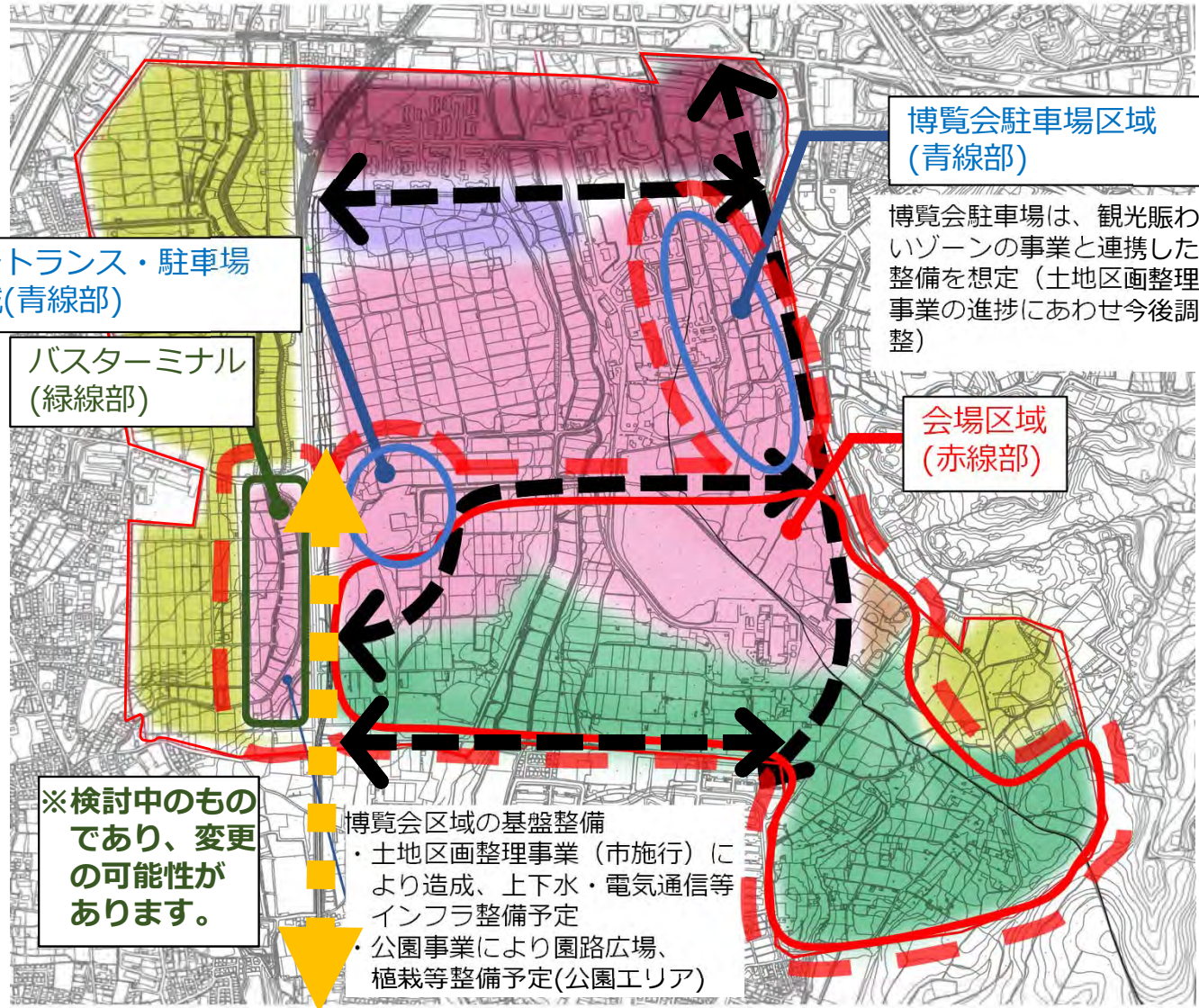
コミュニケーションの継続



## (5) 会場区域とまちづくりの関係

・博覧会区域は、旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画(R2.3)における「観光賑わいゾーン」「公園・防災ゾーン」にまたがり設定。

- 物流施設
- 車両基地
- 観光賑わいエリア
- 農業振興エリア
- 公園エリア
- 防災エリア
- ←→ 地区内道路
- ↔ 新たな交通
- 博覧会区域【約80～100ha】
- 会場区域
- 博覧会駐車場
- 博覧会バスターミナル



### <整備スケジュール>

- ・博覧会区域の基盤整備を土地区画整理事業は 2022年頃から、公園事業(公園エリア)は、2023年頃から先行整備予定。
- ・会場整備は、設計を2022～2023年頃、工事を2024年頃より着手を想定。

※検討中のものであり、変更の可能性があります。

博覧会区域の基盤整備  
 ・土地区画整理事業(市施行)により造成、上下水・電気通信等インフラ整備予定  
 ・公園事業により園路広場、植栽等整備予定(公園エリア)

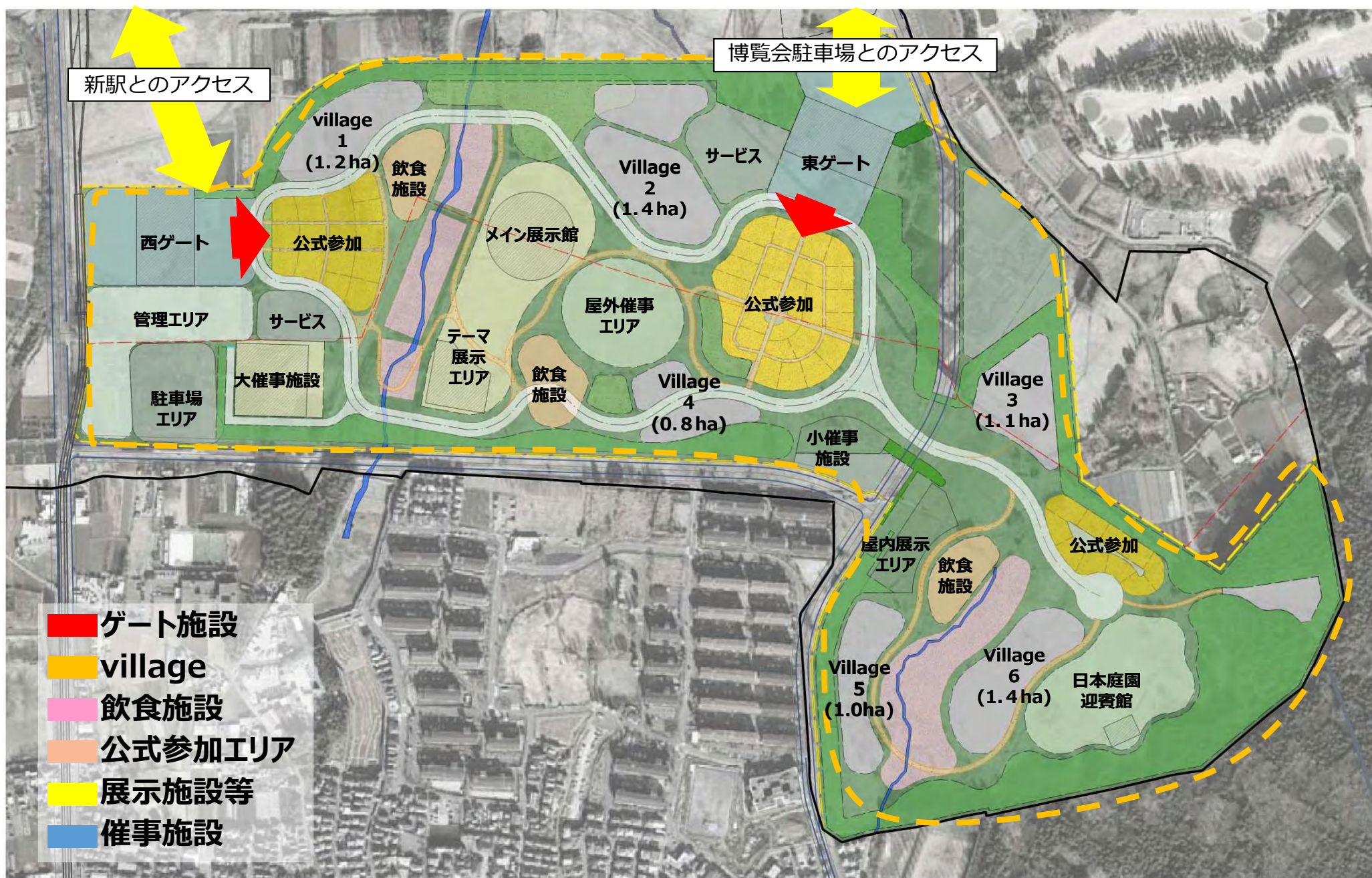
博覧会駐車場区域(青線部)  
 博覧会駐車場は、観光賑わいゾーンの事業と連携した整備を想定(土地区画整理事業の進捗にあわせ今後調整)

会場区域(赤線部)



# 会場配置 (イメージ)


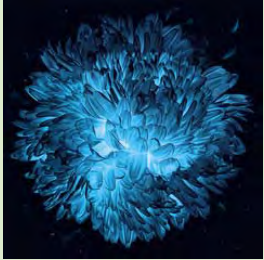




※会場区域における各施設等のボリューム感を検討する  
ものであり、配置等は今後検討予定





- テーマ・サブテーマを踏まえ、本博覧会を象徴し、魅力と話題性が高い、目玉コンテンツを設定する。

## 目玉コンテンツのイメージ

自然との調和 Co-adjustment	緑や農による共存 Co-existence	新産業の創出 Co-creation	連携による解決 Co-operation
<p><b>古代植物・生物の復生</b></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・琥珀の中の生物や氷河などに埋もれたマンモスなどの生物の胃の中の生物の再現、また、4万年前の線虫が復活、植物が復活する。</li> <li>・ARを用いて古代の風景を再現し、リアルな古代の植物・生物にふれる疑似体験ができる。</li> </ul>	<p><b>光る生物の大花壇 (自生・バイオ)</b></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら光る発光生物、バイオによる発光生物で構成された大花壇を整備。</li> <li>・アーティストや交響楽団と連携し、上瀬谷の夜の静寂の中で屋外フェスを開催する。</li> </ul>	<p><b>ICTを活用したリモート農場</b></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインでリアル農場の状況を見て、栽培計画を策定し、国際園芸博覧会の会場で農場として作物を生産する。</li> <li>・オンラインで注文すれば生産した作物を国内外に配送。</li> </ul>	
<p><b>22世紀のスマート・グリーン都市</b></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・22世紀の情報化社会において、どのような、まち、緑、暮らしになるかを企業と連携して展示。</li> <li>・village内で数日間、ICTを活用した半農半Xのライフスタイルを家族や仲間と体験する。</li> </ul>	<p><b>宇宙でつくる未来の食事</b></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・超長期シナリオにおける当面の目標として設定した2040年代の月面1000人の長期滞在に向けて、月面基地での究極の食のソリューションを可視化。</li> <li>・宇宙ステーションでライブ配信を行い、宇宙での食事を仮想体験。</li> </ul>		<p><b>世界からバーチャル参加の自然共生の祝祭</b></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界からリアル・バーチャルで参加してもらい、自然共生を体験し共に祝う祝祭を企画・開催する。</li> <li>・併せて世界のシェフを集め、横浜の海と丘をつなぐ食材を中心とした料理の世界大会を開催する。</li> </ul>

## （１）海外及び主要都市からのアクセス

### 【空路・海路】

- **空路は羽田空港**・成田空港からのアクセスを想定。
- **海路は横浜港**（大さん橋ふ頭や新港ふ頭など客船ターミナル）を想定。

### 【主要都市からのアクセス】

- **新幹線アクセスは新横浜駅**利用が主となることを想定。  
また、2027年の開業を目指すりニア中央新幹線の整備が進捗。  
JR横浜線橋本駅周辺に新駅を計画、新横浜までのアクセス性が高い。
- 高速道路は、至近の東名高速道路横浜町田ICがあり、首都圏からも圏央道などの交通ネットワークにより広域からの利便性が高い。



## （２）会場周辺のアクセス

### 【鉄道】

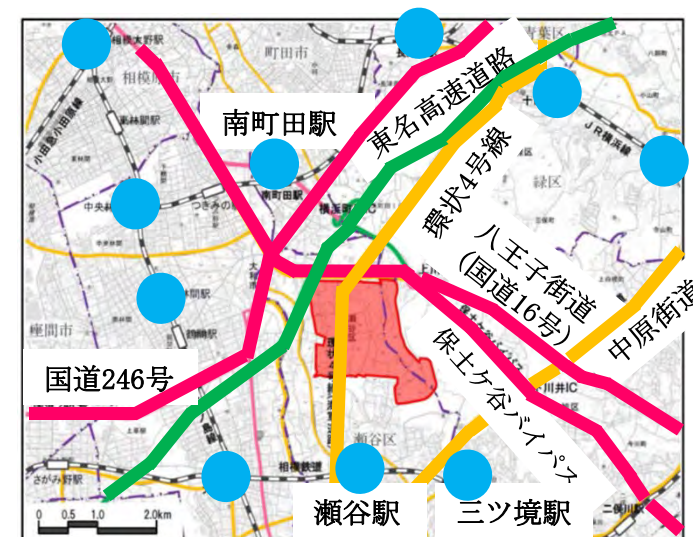
- 近隣の駅として、南側約2kmに「**瀬谷駅**」や「**三ツ境駅**」、北側約2kmに「**南町田駅**」。
- 会場周辺を囲む形で複数の路線があり、周辺駅からのアクセスを想定。

### 【道路】

- **東名高速道路**及び**保土ヶ谷バイパス**、国道246号、八王子街道、環状4号線、中原街道などの幹線道路が計画地周辺にある。

### 【会場駐車場】

- 会場に隣接して団体バス、障がい者、自家用車の駐車場を整備。
- 会場から概ね10km圏内に会場外駐車場を整備、「パーク＆ライド」を導入。





# 輸送計画（上瀬谷周辺の整備）

- 周辺道路の拡幅、新規整備や新たな交通などの計画が進んでおり、博覧会の開催にあわせ活用する。

【旧上瀬谷通信施設跡地における将来まちづくりに合わせた基盤整備計画】



事業の種類	概要	凡例
都市計画道路の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>八王子街道の拡幅</li> <li>三ツ境下草柳線等の整備</li> </ul>	
土地区画整理事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>環状4号線の拡幅</li> <li>地区内道路①、及び、地区内道路②の整備</li> </ul>	
新たな交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>相模鉄道「瀬谷駅」から新交通システムの整備</li> </ul>	

# 2027 横浜 国際園芸博覧会への期待 ～専門家に聞く～ 有識者インタビューの動画を公開します

横浜市では、2015年6月に米軍から返還された旧上瀬谷通信施設において、国際的な園芸文化の普及や花と緑のあふれる暮らし、地域・経済の創造や社会的な課題解決への貢献を目的とした国際園芸博覧会を2027年に開催する予定です。

国際園芸博覧会の開催に向けて、様々な方にその目的や意義をお知らせし、園芸博に関心を持ってもらい、より多くの皆様の積極的な参加につなげていくため、専門家に国際園芸博覧会への期待についてお聞きしました。ぜひご覧ください。

## 2027 横浜 国際園芸博覧会 有識者インタビュー動画の概要

- |                                   |                        |        |
|-----------------------------------|------------------------|--------|
| I 「2027 横浜 国際園芸博覧会 概要」            | 都市整備局上瀬谷整備・国際園芸博覧会推進室長 | (約7分)  |
| II 「2027 横浜 国際園芸博覧会への期待 ～専門家に聞く～」 |                        |        |
| ①東京農業大学 准教授                       |                        |        |
| 旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会招致検討委員         | 福岡孝則氏                  | (約14分) |
| ②株式会社 サカタのタネ 代表取締役社長              |                        |        |
| 旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会招致検討委員         | 坂田宏氏                   | (約14分) |

## 視聴方法

以下の URL よりご覧いただけます。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/seisaku/torikumi/engeihaku/koho.html>

## ■インタビュー動画



概要説明



専門家へのインタビュー



## 2027 国際園芸博覧会 ～世界の花、横浜で咲かせよう～

国際的な園芸文化の普及や花と緑のあふれる暮らし、地域・経済の創造や社会的な課題解決等への貢献を目的に開催します。

メインテーマ：幸せを創る明日の風景

開催期間：2027年3月～9月

開催場所：旧上瀬谷通信施設（旭区・瀬谷区）

## お問合せ先

都市整備局国際園芸博覧会推進課 担当課長 後藤 勝 Tel 045-225-8928